

千葉菌類談話会通信 27 号 目次

アミガサタケの生長観察	毛利 尚樹	4
三休むかしばなし「伝説菌茸キノコン」	三休 さん	9
千葉県産「マツタケ」ついにデビュー？	吹春 公子	12
アミガサタケ、好きだ！	宮林 八男	13
南方熊楠の菌類観察記録(文庫本「森の思想」から)	大久保 泰和	14
ヒラフスベを食す	藤田 正子	16
禁断の菌に見た物は	高橋 勝雄	18
妖精たちに取り憑かれて	矢代 晶子	19
幕末の鹿渡村	松田 弘義	20
バカマツタケの北限について	村上 勝利	24
キノコの事を想う	大野 和子	25
ヌメリイグチとチチアワタケを食べた話	大西 清二	26
松茸に生えるキノコは妖怪だ！	萩本 宏	27
ジュースパン	相良 直彦	32
マムシが取り持つきのこの縁	古川 久彦	34
きのこ・かび 関連図書の紹介	吹春 俊光	37
2010 年度行事報告	吉田 悦子、吹春 公子	43
きのこ歳時記 8 —現代の短歌より—	今野 英山	52

表紙に寄せて

今回の表紙カットは、私が 1997 年秋～99 年春に掛けて書き貯めたスケッチ集からピックアップしたものです。当時『南方熊楠全集』を耽読していた私は、散歩途中に見つけた変てこな突起物…熊楠云うところの Phalloideae(ハドリアヌスタケ)の仲間に違いないと直感した…ツノツマミタケがきっかけで、キノコの世界に足を踏み入れました。菌類図鑑の見方からして未知の領分だったので、まずはキノコの分類を覚えるべく、フィールドで採集したキノコのスケッチを取り、図鑑と首っ引きで同定を試みるところから始めました。画は水性ボールペンで形取りしたものに色鉛筆で着色し、形態の特徴と発生状況を書き添えてあります。千葉大学西千葉キャンパスをメインのフィールドにして一年半。折しもその期間は降水と降雪に恵まれ、千葉市域は十年に一度のキノコ大発生の年だったのが幸いして、二百種余のキノコと出会えました。その内、自分也に同定に至ったのは六割程度でしょうか。皆目勝手が判らぬが故に、全てが新鮮で愉しかった時代です。当時はしょっちゅうキノコの夢を見るくらい熱中しておりましたが、その後老眼と乱視が進んでスケッチ作業が困難になったこともあり、キノコからは離れてしまいました。現在は古文書に打ち込んでおりますが、今でもキノコを目にすると心が疼きます。十年以上経った今スケッチを見直すと、随分色褪せてしまっていて、往時茫々の感があります。(坊山英浩)